

第2回 食に関する指導研修会

令和2年2月8日（土）に、名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 教授（特任）松崎利美先生をお招きし、「授業のユニバーサルデザインの視点を学ぶ～どの子にもわかる指導を目指して～」という演題で研修会を行いました。150名の会員が参加し、ユニバーサルデザインの基本的な考え方、ユニバーサルデザインを取り入れるポイントなどを学ぶ有意義な研修会となりました。



【松崎利美先生】

1 授業のユニバーサルデザインの考え方

授業のユニバーサルデザインとは、発達障害など特別な支援が必要な子を含めて、全ての子どもが楽しく学び合い、「わかる・できる」ことを目指す授業を構築することだと教えていただきました。特に、学習面につまずきがある子どもの多くは、授業のおもしろさに敏感で、参加感が薄いと「つまらない」と感じ、授業から離れてしまうと伺いました。そのため、「考える時間」をつくることが最大の支援になることを、実践を交えて、わかりやすく教えていただきました。栄養教諭は、限られた時間で多くのことを伝えたいという思いから、話しすぎてしまう傾向があります。「考える時間」を大切にして、問いの入れ方などを工夫し、子どもたちが少しでも主体的に考えて、学びを深めていけるような指導を行っていきたくと改めて感じました。

2 どの子にも「わかる」「できる」ための授業の手だて

授業の手だてとして、焦点化（何をするのか、何のためにするのか、何がわかるのか、ねらいや活動を絞ること）、視覚化（絵や図、具体物などを用いて視覚的な理解を重視すること）、共有化（ペアでの話し合いやモデル発言の教材化によって考えのよさを分かち合うこと）をすると、主体的、対話的で深い学びの授業につながると、実例を挙げて具体的に教えていただきました。現在行っている授業内容を振り返る機会となり、全ての子にとって「できた」「わかった」「身に付いた」を実感できる授業となるように、3つの視点を取り入れた授業への改善を図りたいと思いました。

3 教員の意識が変わると、学校が変わる！

講義の最初に、松崎先生から「今日のテーマは『チェンジ！』です」とのお言葉がありました。講義を通して、ユニバーサルデザインを実践することで、児童生徒一人一人が自己肯定感を高め、互いに認め合える仲間へと成長し、全員が活躍できる学校になるということを学びました。私たち栄養教諭もその一員であるために、自らの意識や行動を「チェンジ」し、積極的に努力していかなければならないとの思いを強くしました。



【研修会の様子】

《参加者の声》

言っても聞かない子、やらない子に対し、どう関わっていけばよいかとても悩んでいました。でも、その子が何かに「困っている子」だと思えば、イライラする気持ちにはならず、助けてあげたいと思うようになります。自分の意識を「チェンジ」することで、子どもたちの将来がより豊かに変わっていくように努力したいと思います。